

# 渋沢栄一が受け入れ体勢を整え、

## 日本に贈られた青い目の人形

和紙の里ふるさと文化伝習館に展示（埼玉県立歴史と民俗の博物館へ6月（予定）まで貸出中）している青い目の人形は、NHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公である渋沢栄一が政府に働きかけ、日本国際児童親善会を組織し受け入れ体勢を整え、アメリカから日本に贈られてきました。

昭和2年（1927年）頃の両国は経済不況が深まり、アメリカでは日本人移民の排斥がゆれ動き、日米関係は悪化していました。アメリカの一部の人々は、この危機を両国民の相互理解で好転しようとしてドニー・ルイス・ギューリック博士が中心となり、世界児童親善会を設立し、日本の子ども達に人形を贈ろうという運動が展開されました。「世界の平和は子どもから」をスローガンに、26万人ものボランティアが一年がかりで取り組み、子ども達や女性団体の手作りの洋服を着た人形が集められました。

一方、日本では渋沢栄一が政府に働きかけ、日本国際児童親善会を組織し、受け入れ体勢を整えます。

昭和2年2月、アメリカから12、739体の青い目の人形が海を渡ってきました。埼玉県にも178体が贈られることになり、4月に埼玉会館で盛大な歓迎

迎いが催されました。当日は、日米両国の国旗を掲げた舞台上に6段のひな壇をしつらえ、青い目の人形と鴻巣生まれの日本人形が飾られ、県知事や小学校の代表児童が歓迎のことばを述べました。

東秩父村では、大河原尋常高等小学校（現東秩父村立槻川小学校）に、ニューヨーク生まれのマーガレット・フォックス嬢が贈られ、5月5日に歓迎会が挙行されました。

しかし、日本とアメリカはこうした人形を通じての文化交流があつたにも関わらず不幸な戦時下に入り、人形受難の時代に入りました。

戦後、忘れ去られていた人形たちは昭和48年（1973年）頃から各地で健在であることがわかってきました。全国に贈られた青い目の人形12、739体のうち健在なのは216体といわれ、埼玉県では178体のうち12体が確認されています。

令和3年7月から和紙の里ふるさと文化伝習館において、「青い目の人形展」（仮称）を開催予定です。

「人形バスポート」なども期間限定で展示しますので、多くの方のご来館をお待ちしています。



大河原尋常高等小学校（現東秩父村立槻川小学校）へ贈られたマーガレット・フォックス

## 官ノ倉山ハイキングを 実施いたしました☆



4月24日（土）に第33回和紙の里東秩父官ノ倉山ハイキングを実施いたしました。当日は快晴で絶好のハイキング日和！参加者総勢29名で楽しくハイキングができました。このハイキングの主旨としては、村内周辺地域の山々を歩き、自然に親しむとともにふるさと「東秩父」を再発見しようという目的があります。山頂付近にある浅間神社では、大久根宏氏（安戸）より浅間神社にまつわる歴史の解説もしていただき、健康づくりと同時に改めて東秩父村の魅力を再発見することができ、有意義な時間を過ごすことができました。子どもたちから「楽しかったです！」という声も届いており、次回の開催が早くも待ち遠しいですね！